

嘉手納基地内主要部隊、新司令官紹介

第18航空団広報局

第18航空団、第18運用群、第18任務支援群、第18施設群



今年の5月、嘉手納基地副司令官として、チャールズ・“ブライアン”・マクダニエル大佐が着任しました。マクダニエル大佐は、テネシー大学で歴史学士を取得後、KC-135空中給油機などの大型機などを運用し、3,000時間以上の飛行経験がある指揮官パイロットです。また、エンブリーリドル航空大学航空科学管理運用専門の修士号、アリゾナ州マックスウェル空軍基地にて軍事作戦芸術科学の修士号を取得しました。嘉手納基地に配属前は、ワシントンD.C.にある国防省に、防衛研究員や上級分析官として勤めていました。



航空機の運用を統括する第18運用群では、新司令官ピーター・ミロニック大佐が着任しました。約80機の航空機を運用する同群配下にある8中隊900人の隊員の最高責任者です。空軍士官学校の卒業生で、2,800時間以上の飛行時間のあるF-15戦闘機の指揮官パイロットです。航空大学より軍事運用技術学（Military Operational Arts and Science）、米海軍戦争大学（US Naval War College）より国家安全保障戦略研究（National Security and Strategic Studies）の修士号を取得しました。着任前は、ハワイ州ヒツカム空軍基地で、統合軍航空構成司令官（Joint Force Air Component Commander）を勤めました。嘉手納基地への配属は今回で2度目になります。

空軍でも最大規模の後方支援部隊である第18任務支援群の新司令官はジェフリーR. オルマン大佐です。オルマン大佐はこれまでに、基地、主要コマンド、航空幕僚レベルで多様な土木工学の部署に勤務。イラクの自由作戦、南部の監視作戦、快適環境提供作戦に派遣された施設部隊を指揮した経験があります。嘉手納基地に配属前は、ワシントンDCのフォート・マクネアにある国防産業大学で、多様な国家安全保障や資源戦略の分野を研究、国家資源政策の修士号を取得しています。



第18施設群司令官としてゲリー・J シュナイダー大佐が着任しました。シュナイダー大佐は、嘉手納基地内のインフラ整備や、沖縄県内米軍基地内にある8,300棟以上の米軍家族住宅を監督する国防省管轄の住宅事務所の責任者でもあります。土木工学が専門で、2010年に国防産業大学で国家資源政策の修士号を取得しました。着任前は、アラスカ州を含む米国本国、ドイツ、ポルトガルなどに駐留、在欧米軍、NATO軍などで土木技術部隊の司令官を務めました。



SKOSHI KADENA AUGUST 2012

PART I 嘉手納基地内主要部隊、新司令官紹介

第18航空団組織図

第13回嘉手納スペシャルオリンピックス

長野県阿智村、沖縄市の子供達の交流を支援

英語キャンプ交流会

沖縄の理容師、半世紀を振り返る

PART II

SPOTLIGHT：日本人従業員の紹介

F-22ラプター戦闘機、嘉手納基地に一時配備

自民党青年部議員、嘉手納基地を視察

在日米軍司令官交代式

琉球大学学生、嘉手納基地を視察

沖縄市議会議員、嘉手納基地を視察

「第19回沖縄市の戦跡めぐり」

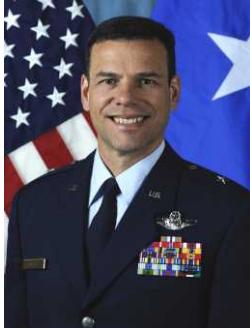
嘉手納基地、スペシャルオリンピックス活動を支援

「旧盆の日」における飛行制限措置

第18航空団組織図

(2012年8月現在)

第18航空団司令官



第18航空団副司令官

Colonel
Charles B. McDaniel
チャールズ・マクダニエル大佐



第18航空団最上級曹長

Chief Master Sgt.
Mark D. Marson
マーク・マーソン
上級曹長



18TH WING



第18運用群



18th Operations Group

Colonel
Pete J. Milohnic
ピーター・ミロニック大佐



18th Operation Support Sq.
第18運用支援中隊

第18任務支援群



18th Mission Support Group

Colonel
Jeffrey R. Ullman
ジェフリー・オルマン大佐



18th Force Support Sq.
第18部隊支援中隊

第18整備群



18th Maintenance Group

Colonel
Brian R. Beers
ブライアン・ビアーズ大佐



18th Maintenance Sq.
第18整備運用中隊

第18医療群



18th Medical Group

Colonel
Barbra B. King
バーバラ・キング大佐



第18施設群



18th Civil Engineer Group

Colonel
Gary J. Schneider
ゲーリー・シュナイダー大佐



18th Operation Support Sq.
第18運用支援中隊

18th Force Support Sq.
第18部隊支援中隊

18th Maintenance Sq.
第18整備運用中隊

18th Civil Engineer Sq.
第18施設中隊

44th Fighter Squadron
第44戦闘中隊

18th Security Forces Sq.
第18憲兵中隊

18th Aircraft Maintenance Sq.
第18航空整備中隊

18th Medical Operations Sq.
第18医療運用中隊

67th Fighter Squadron
第67戦闘中隊

18th Logistics Readiness Sq.
第18兵站即応中隊

718th Aircraft Maintenance Sq.
第718航空整備中隊

18th Aerospace Medicine Sq.
第18航空医療中隊

909th Air Refueling Sq.
第909空中給油中隊

18th Contracting Sq.
第18契約中隊

18th Component Maintenance Sq.
第18構成部品整備中隊

18th Dental Squadron
第18歯科中隊

961st Airborne Air Control Sq.
第961航空空中管制中隊

18th Communications Sq.
第18通信中隊

18th Equipment Maintenance Sq.
第18装備品整備中隊

33rd Rescue Squadron
第33救難中隊

18th Munitions Squadron
第18弾薬中隊

31st Rescue Squadron
第31救難中隊

18th Aeromedical Evacuation Sq.
第18航空医療搬送中隊

623rd Air Control Flight
第623空中管制小隊



AS OF 24 AUG 2012

第13回嘉手納スペシャルオリンピックス 開催に向け準備進行中

第18航空団広報局



嘉手納スペシャルオリンピックスは、県立特別支援学校、沖縄市、嘉手納町、北谷町、米軍基地内に所属する特別支援学級の生徒、また3市町に所属する福祉作業所・施設を利用する障がいのある方々を対象としたスポーツ競技大会と絵画展です。大会実行委員会は米陸軍、海軍、空軍、海兵隊4軍から参加するボランティアで構成されており、これから大会までの約3ヶ月、大会当日の準備に加え基地内のチャリティー活動や壮行会、聖火リレーなど様々な行事の準備を進めていきます。



(米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影)



(米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影)

チャリティー活動の中には基地内消防隊員が行う「ファイル・ダ・ブーツ」と憲兵隊員が行う「ティップ・ア・カップ」というユニークな募金活動があります。

「ファイル・ダ・ブーツ」は消火活動に使用する防火ブーツを募金箱に見立て、「ブーツを募金で一杯に」してもらうため、消防隊員が基地内の商業施設に出向き募金活動を行います。「ティップ・ア・カップ」は英語でコーヒーカップやティーカップなどを意味するCupと警察官を意味するCopの発音が似ていることから「カップにチップを」ということで、憲兵隊員がボランティアでウェイター・ウェイトレスとして基地内レストランで半日ほど働き、その憲兵隊員にチップをはずむという形で募金活動をします。また、ジョギングをリレーでつなげ24時間走り続ける「ジョガソン」に参加する参加費が募金となるなど、大会運営を支援するため多くの人が様々な形で参加しています。

嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会の中心運営委員は米空軍兵と米国民間人そして日本人従業員で構成されており、本年はジョン・ノーラン少佐を中心にジャスティン・ハーファ大尉が「ブルチーム」、エリック・ブラウン大尉が「タイガーチーム」のリーダーとして2チーム体制で運営管理を補佐していきます。また、長年スペシャルオリンピックス運営に関わっているフェリップ・ヒメネス氏、チップ・スタイル氏、普久原尚子女史がアドバイザーとして加わり、今年もアスリートやアーティストの皆さん的心に残る素晴らしい大会になるよう、実行委員会一同頑張っています。



お知らせ

- ボウリング競技：9月29日（土）T.T.ボウルミハマ アメリカンビレッジ（旧シーサイドボウルミハマ）
- 絵画展：10月18日（木）～21日（日）サンエー具志川メインシティー、1階メインコート
- チャリティーアートオークション：11月2日（金）プラザハウス 2階 南広場
- スポーツ競技：11月17日（土）嘉手納基地内ライスナーハウス

KADENA SPECIAL OLYMPICS

長野県阿智村、沖縄市の子供達の交流を支援

第18航空団広報局



8月初旬、今年もまた長野県阿智村の子供達が沖縄市へやってきました。長野県から沖縄へは夏に、沖縄市から長野県へは冬に、各々の文化や歴史を勉強するため、小中学生の交流が過去数年行われています。その交流の一環として、嘉手納基地広報渉外部は嘉手納基地にある歴史的意義のある場所への視察、また基地内の子供達との交流を支援しています。8月は米軍の学校も夏休みで、基地内の青少年センター（学童施設に類似）ではダンスやゲームを準備して阿智村の子供達との交流を楽しみにしていましたが、残念ながら、今年は台風に見舞われ、子供達の活動が中止になってしまいました。阿智村の子供達が帰る最終日によ

やく嘉手納基地の台風警戒が解除され、基地内の史跡見学を何とか実施することができ、1945年9月7日沖縄戦降伏調印の行われた場所（基地内では「平和の園」と称す）を見学しました。

嘉手納基地の中高生、英語キャンプ交流会で那覇市の中学生と交流

第18航空団広報局

2012年8月16日、嘉手納基地のティーンセンターで活動している生徒22名が、那覇教育事務所主催の英語キャンプ交流会に参加しました。英語キャンプは那覇地区の中学生を対象に南城市の玉城青少年の家で1泊2日の日程で行われ、その一環として1日目に交流会が企画され、嘉手納基地のティーンセンターが招待されました。ティーンセンターは、嘉手納基地内の10代（13歳から18歳）を対象に様々なクラブやスポーツプログラム、交流活動などを提供する福利厚生施設です。



那覇地区（那覇市、浦添市、北大東村）から参加した中学生は全部で42名。交流会では、始めに英語じゃんけんゲームで打ち解けた後、自己紹介し、4～5名のグループに分かれて写真などを使い出身地や家族を説明したり、趣味の話などで盛り上りました。グループ別での自己紹介では、カデナハイスクールに通うジャダ・ムリンクスさんは13歳ですが9年生（日本では中学3年生）と話し、飛び級したために9年生ということを説明した後、趣味で持参したウクレレを弾いて披露しました。初めはどちらも緊張した面持ちでしたが、スポーツ、映画、アニメなど興味のあることを次々に質問していくうち、次第に打ち解けていきました。最後は全員でLean on meをジェスチャーを加えて歌い、お互いに写真を撮ったり名残惜しそうな雰囲気で交流会が終了しました。

交流会に参加した神原中学校3年の友利秋桜（ともりあきよ）さんは、「このような米国人との交流会に参加するのは初めてでしたが、ティーンセンターの生徒はとても分かりやすい英語で説明してくれるので、勉強になりました。楽しかったです。」と感想を述べました。





沖縄の理容師、半世紀を振り返る

第18航空団広報局

規則に従うーということが日々の生活の一部である軍人にとて、きちんとした身なりや髪を整えることもその一つです。1965年から嘉手納基地で理容師として働く大城和美さんは、伊計島出身で、これまで47年間、軍人、軍属、その家族の人達の髪を切り続けてきました。現在、嘉手納基地のBX（ベース・エクスチェンジ）内の理髪店でマネージャーを務めています。

嘉手納基地で理髪店新開店に伴い雇用された大城さんは、当時19歳。理髪師免許と指導者資格を取得するため夜間学校に通いながら、嘉手納基地で働き始めました。大城さんは「当時は散髪が25セント、髭剃りとシャンプーが10セントの時代でした。」と当時を振り返りました。現在は、散髪が10ドル25セント（790円）、髭剃りとシャンプーは4ドル35セント（350円）という価格設定です。軍人のヘアスタイルにも流行があり、インダクションカット（丸刈りに近い短髪）、フラット・トップ（上部が平たいスタイル）、クルー・カット（角刈り）などあり、時代の流れと共に変わり、今となってはほとんど誰も知らないホースシュー（馬蹄型）スタイルという髪型もあったそうです。大城さんは、週に平均200名の散髪を行っており、年間約10,600名、この47年間で延べ497,000名以上の髪を切ってきました。ある軍人の子供で散髪をするために訪れていた男の子が、10年後に将校となって戻ってきて嘉手納基地に赴任し、散髪をお願いされたこともあるそうで、「まるで家族に再会したかのようだった」と嬉しそうに語りました。

マネージャーである大城さんのモットーは「より良い接客と徹底的な衛生管理」で、接客は必ずお客様の目を見て話すことを心掛けています。お客様からの不満があった際には、同じことが起きないようにスタッフに説明し、これまで以上のサービスが提供できるように努めているそうです。「私を見れば一目瞭然だと思いますが、私はこの仕事が本当に好きで楽しんでいます。身体が健康な限り、この仕事を続けていきたいと思います。これからは後輩を育成することに力を入れていきたい。」と、笑顔で語りました。

**BARBER
SHOP
KAZUMI-SAN!**



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)